

第5回 現代世界の系統地理的考察【自然環境】編

温帯気候とは

～東岸気候と西岸気候～

監修・講師

加賀美雅弘

学習のねらい

温帯はおもに緯度30度から50度の中緯度に分布する。気温と降水量が年間を通じて変化し、季節の変化や違いが比較的明瞭である。温帯はその特徴から、大陸東岸の温暖湿潤気候と温暖冬季少雨気候、大陸西岸の西岸海洋性気候と地中海性気候に区別される。こうした異なるタイプの温帯ごとに人々の暮らしも多様である。東岸に位置する日本では稲作が盛んで、湿気を防ぐ工夫がなされている。一方、西岸のヨーロッパでは森林が身近な存在である。今回は、温帯のさまざまな特徴を文化との関係もみながら学習する。

学習前チェック

- 温帯が世界のどこに分布するのか、地図帳で確認しよう。
- 温帯を特徴づけるモンスーンと偏西風が世界のどのあたりに吹いているのか、調べてみよう。
- 温帯ではどのような農作物や伝統料理がつくられているのか、調べてみよう。

温帯の東岸気候と西岸気候の違い

同じ温帯でも、大陸の東岸と西岸ではその特徴は大きく異なっている。大陸の東岸、特に東アジアから東南アジア、南アジアにかけての地域では、モンスーンと呼ばれる季節風が吹くために、海からの湿った風が流れ込む夏はたいへん蒸し暑くなる。降水量も多く、東京は年間で約1500mmに達する。逆に陸からの風が吹く冬は乾燥する。日本ではシベリアからの季節風に見舞われ、気温はかなり下がる。

一方、ヨーロッパやアメリカ大陸、オーストラリアなどの大陸の西岸では、偏西風と暖流の影響を受けて比較的高緯度でも温暖である。ヨーロッパでは暖流の北大西洋海流からの大気を受けて広い地域が温帯になっている。パリをはじめヨーロッパの多くの都市が北緯50度付近にあり、北緯70度のノルウェー北部の町ハンメルフェストは不凍港である。降水量は比較的少なく、パリでは年間で約600mmしか降らない。

温暖湿潤気候と西岸海洋性気候の暮らし

温暖湿潤気候では夏に高温で降水量が多くなるため、東アジアでは稲作が盛んであり、米を食べる食文化が発達した。また、その裏作には小麦や大豆が栽培され、豊かな食生活を生み出した。また、夏がたいへん蒸し暑くなるため、湿気を防ぎ、風通しのよい住宅が発達してきた。例えばその優れた木造建築物として世界遺産に登録されている岐阜県北部の白川郷「合掌造り集落」。この地域は、冬は雪が降り、厳しい寒さになるのにもかかわらず、合掌造りでは、かやぶき屋根や障子のような蒸し暑い夏をしのぐための工夫がなされている。

西岸海洋性気候では、同じ温帯でも温暖湿潤気候に比べて気温が低く、降水量も少ない。そのため小麦やライ麦を栽培してパンを食べる食文化が発達した。また、ドイツではブナやカシワのような落葉広葉樹の森が広がっていることから、そこで豚を飼育してソーセージやハムが作られてきた。森は人々の暮らしにとって身近な存在であり、今も散歩やハイキングなど多くの人々がレジャーを楽しむ場所になっている。

温暖冬季少雨気候と地中海性気候

温暖冬季少雨気候は、アジアでは中国南部から東南アジア、インド北部にかけて分布する。このほか、ブラジル南西部やアフリカ中南部、オーストラリア北東岸などにもみられる。香港やベトナムのハノイ、ケニアのナイロビやメキシコシティなどの都市がこの気候帯に位置している。乾燥した冬を特徴としており、香港では年降水量約 2300mm のうち、5 月から 9 月に約 1900mm が降ってしまう。こうした気候にあわせてアジアでは米の二期作や茶、ミカン、綿花などの栽培が行われている。

地中海性気候は、ヨーロッパ南部の地中海沿岸をはじめ、アメリカ西海岸、南アメリカのチリ、オーストラリア南西部、アフリカ南端などに分布する。イタリアのローマやギリシャのアテネ、アメリカ合衆国のサンフランシスコ、オーストラリアのパース、南アフリカのケープタウンなどの都市がこの気候帯にある。夏に雨がほとんど降らないことから、高温乾燥に強い果樹の栽培が盛んである。地中海地方では、オリーブやかんきつ類、ブドウ、コルクがしなどが大規模に栽培されている。また晴天に恵まれるため、多くのバカンス客が訪れる場所になっている。